

おいしい水に関する水質の状況について（報告概要）

1 おいしい水づくり計画の水質目標と平成 20 年度達成状況（速報値）

観 点	目 標 項 目	水 質 基 準 等	目 標 値	達 成 状 況		
				平成 19 年度	平成 20 年度	
に お い 及 び 味	残留塩素	1.0mg/L ~ 0.1mg/L	0.4mg/L ~ 0.1mg/L	0.8mg/L	0.8mg/L	
	臭気強度 (TON)	3	1	100 %	100 %	
	か び 臭	2-MIB	10ng/L	1ng/L	92 %	93 %
		ジイオキシン	10ng/L	1ng/L	100 %	90 %
	有機物 (TOC)	5mg/L	1.0mg/L	92 %	100 %	
外 観	色度	5 度	1 度	100 %	99 %	
	濁度	2 度	0.1 度	100 %	100 %	
安 心	総トリハロメタン	0.1mg/L	0.03mg/L	68 %	96 %	
今後目標設定すべき項目						
に お い	トリクロロアミン	検査体制が整 い次第目標値 設定	カルキ臭を 感じない値以下	-		

2 トリクロロアミンに関する調査（報告済み）

1) 浄水場での塩素注入変更によるトリクロロアミン低減効果に関する調査

- ・各浄水場の施設配置にあわせた塩素注入の調整により、カルキ臭の低減傾向がみられた。
- ・塩素注入調整によるトリハロメタン等副生成物は、高水温期や高濁時等を除き、大きな変化はなかった。

実施浄水場：栗山浄水場、柏井浄水場（西側施設）、北総浄水場

2) 給水栓におけるカルキ臭調査

トリクロロアミンの対策前の平成 19 年度と平成 20 年度でのトリクロロアミン濃度とカルキ臭の傾向を比較すると次のとおりであった。

トリクロロアミン濃度（給水栓 27 箇所平均） 0.04mg/L 0.02mg/L

3 トリクロロアミンの指標について

平成 20 年度の給水栓定期検査におけるトリクロロアミン濃度とカルキ臭の有無を枠内の条件で数値化し、27 箇所毎に平均値を求め、傾向を確認したところ両者にやや相関が見られた。

数値化条件
トリクロロアミン濃度：DPD 吸光光度法による測定
カルキ臭：官能試験による結果を 3 段階で点数化する。
官能試験でカルキ臭を強く感じる場合 2 点
やや感じる場合 1 点
感じない場合 0 点

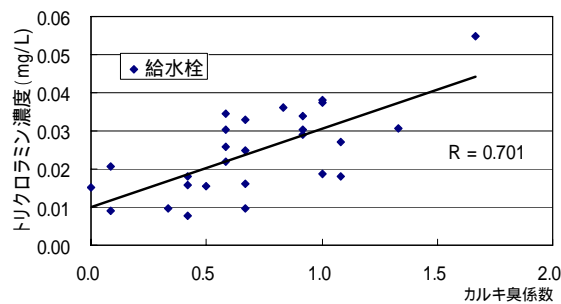


図-1 給水栓トリクロロアミン濃度とカルキ臭について

官能試験によるカルキ臭の評価を数値化するにあたっては今後検討の余地はあるものの、今回の結果からやや相関関係がみられたことからトリクロロアミン濃度を低減することがカルキ臭低減へつながるものと考えられる。このため目標値を設定するにあたってはより低い数値、定量下限値である0.02mg/L以下を目標とする必要があると思われる。